

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる
具体的な施策	(2) 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む
	5 広域連携事業
事業名	五島列島観光周遊連携事業
担当課名	観光商工課
関係課名	
所属長名	安 永 佳 秀
事業の目的	関係自治体と連携して広域的に観光事業等に取り組み、島の文化や豊かな自然を多くの方に情報発信し、さらなる観光客誘客、地域経済の活性化、移住定住の促進を図る。
事業の内容	県内外の離島や都市と連携し、旅行関連の調査や共同PR、共同旅行商品の展開などに取り組む。
事業の実績・取組状況	○世界遺産候補の教会群の構成資産が点在する上五島と下五島を海上タクシーで周遊する個人対応型着地型旅行商品「五島列島キリシタン物語」の実施。 運航回数140回 利用者数969人（五島広域観光推進事業負担金 617千円） ○福岡市・対馬市・壱岐市・五島市・新上五島町・屋久島町による観光振興等広域連携協定 締結（福岡市・九州離島広域連携協議会負担金 44,000千円 ※H28年度に全額繰り越して実施）
成果（できたこと）	○世界遺産候補の教会群の構成資産が点在する上五島と下五島を個人の方でも海上タクシーで周遊することができるようになり、島の文化や豊かな自然を多くの方に情報発信することができ、交流人口の拡大及び地域経済の活性化が図られた。 ○福岡市・九州離島広域連携については、地方創生加速化交付金による財源確保ができた。（事業実施はH28年度から）
課題（できなかったこと）	個人対応型着地型旅行商品の展開において、五島市以外との観光周遊連携が図れなかった。
担当課評価	B 五島市との観光周遊事業に取り組むことができ、多くの観光客に五島市と新上五島町を周遊していただくことができた。 福岡市・九州離島広域連携による「Re島プロジェクト」は、H28年度以降に実施する。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	個人対応型着地型旅行商品の展開においては、事業を検証しながら、新たな周遊連携事業についても、関係自治体と検討し、今後も引き続き事業に取り組む。 また、福岡市・九州離島広域連携による「Re島プロジェクト」については、H28年度から事業を展開する。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	4 地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる
具体的な施策	(2) 魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む
	5 広域連携事業
事業名	おもてなしのしま五島プロジェクト事業
担当課名	観光商工課
所属長名	安 永 佳 秀
関係課名	
事業の目的	世界遺産登録で五島を訪れる観光客が急増することを見込んでいます。その機会を逸することなく、五島の魅力を伝えることができる着地型観光商品の造成や、新しい観光素材の開発、宿従業員、観光協会等職員の資質向上を目指した事業を実施することで、町全体のおもてなしの向上を目的としています。
事業の内容	五島列島おもてなし協議会へ負担金を支出している。 五島列島おもてなし協議会は長崎県五島振興局を事務局として、下記3つの事業を柱として実施している。 1. 観光関係者のスキルアップ・意識改革 2. 二次交通の整備と着地型旅行商品づくり 3. 観光客満足度調査と情報発信
事業の実績・取組状況	・着地型旅行商品「五島列島キリシタン物語」(旅行企画実施：新上五島町観光物産協会)の実施 ・宿泊施設等研修会 5回開催 延べ参加者数 150人 ・観光客満足度調査 サンプル数3,013人 (おもてなしのしま五島プロジェクト事業負担金 4,128千円)
成果(できたこと)	「五島列島キリシタン物語」という着地型旅行商品を造成し、少人数でも不便なく旅行できるような観光地づくりを推進できた。研修会の開催により、宿従業員等の更なる“おもてなし向上”を目指す機会となった。観光客の満足度を確認できた。
課題(できなかったこと)	「キリシタン物語」という着地型旅行商品を造成できたが、全体的な観光客の誘客については課題がある。
担当課評価	B 世界遺産効果で五島を訪れる観光客に満足してもらい、旅行先として再度来島してもらえよう、行政と民間が一体となって観光客の受入体制の整備に取り組む本事業は重要であり、ほぼ計画どおりに取り組むことができた。重要な事業であり、今後も継続して事業を推進する。
課題の解決策(目標(KPI)向上に向けた今後の取組方法)	着地型旅行商品「五島列島キリシタン物語」の効果的な情報発信に努めるとともに、おもてなし度を向上し、更なる観光客受入体制の強化に取り組む。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A : 目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B : ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C : 目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D : 目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E : 目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	5	広域連携事業	
事業名	椿による五島列島活性化特区事業〈まち再掲〉		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	椿油の増産のみならず椿の木全てを有効に活用して地域が一体となり「椿関連産業」の活性化に取り組み、離島の活性化の起爆剤として地域に根ざした地域密着型の6次産業化を目指すことを目的としている。また、その椿実から採れる油の製品の生産増大・販路拡大を通じて、就業の機会の創出と地域活性化を図る。		
事業の内容	自生椿林整備、椿加工場建設、椿油・関連商品開発促進		
事業の実績・取組状況	自生椿林内作業道整備 2.8km 自生椿林改良 34.24ha 新上五島町つばき木工房 保管用倉庫、レーザー加工機整備 木工講習会開催 4回 木工技術振興会会員の先進地視察研修 つばき苗支給 2,777本（成人式記念、荒廃農地復旧など） などを実施 67,495千円		
成果（できたこと）	つばき林の除伐・断幹により、森林が持つ機能回復を図るとともに優良つばき林育成に繋がった。 木工技術振興会では保管用倉庫、レーザー加工機を導入し施設の充実を図るとともに、県外から講師を招聘して講習会を開催し、会員の木工技術のレベルアップが図られた。 つばき苗支給により、「日本一の椿の島づくり」を町内外にアピールできた。		
課題（できなかったこと）	耕作放棄地への苗木植栽が少なかった。		
担当課評価	C	耕作放棄地の解消が進んでいない。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	耕作放棄地への植樹を促進するため、高齢者でも椿実を収穫できるような整備を検討する必要がある。		
委員評価	C	2次評価のとおり（まち分野で評価）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	4	地域資源を活かした「魅力あるしま」をつくる	
具体的な施策	(2)	魅力ある観光地を創り、国内外から人を呼び込む	
	5	広域連携事業	
事業名	長崎誘客拡大支援事業（県事業）		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名			
事業の目的	県内各地における宿泊客の増加、県内周遊促進及び観光消費額の拡大を図る。（長崎県が実施）		
事業の内容	観光を目的とする来訪者の獲得に向け、消費者に対し、旅行会社（インターネット含む）を通じて旅行費用の一部を支援する。（長崎県が実施）		
事業の実績・取組状況	国の経済対策交付金（地域活性化・地域住民等緊急支援交付金）を活用して、長崎県で県内各地における宿泊客の増加、県内周遊の促進及び観光消費額の拡大を図るために、旅行会社（インターネット系含む）を通じて旅行費用の一部を支援。（平成27年度のみ実施。町の負担なし） ○本事業を活用した延宿泊人員1,587人（新上五島町分）		
成果（できたこと）	長崎誘客拡大支援事業（ふるさと旅行券）によって、島外から多く誘客につながり、また、来島者による観光消費にもつながった。		
課題（できなかったこと）	国の経済対策交付金を活用した事業であったため、平成27年度単年度の実施であり、平成28年度以降に継続されなかった。		
担当課評価	B	長崎県と連携し、島外から多くの方に宿泊を伴う来島をしていただくことができた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	後年度以降も国交付金を活用して長崎県が主体となって観光客誘客事業に取り組む場合においては、情報発信等連携を図りながら、交流人口の拡大に取り組んでいく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。